



第2回

気持ちを込めて言ってみよう!

～形容詞を使った表現～

学習のポイント

- 自分が感じたことを単語を使って言える
- 英語で物の数を数える
- 入れ物などを使って数量を数える

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

自分が感じたことを単語を使って言える

私たちにとって英語は外国語なので、気持ちを込めて使うことが難しいと思っているかもしれません。そんなことはありません。素晴らしいものを見て、**Good!**と褒めてみましょう。すごいなあと思ったら、**Great!**と叫んでみましょう。

美しいものには、**Beautiful!**と感動してみましょう。きれいだったら**Pretty!**、かわいいと思えば、**Cute!**です。反対に、恐ろしいものを見たときは、**Scary!**と英語で怖がるのもいいでしょう。汚いものには、**Dirty!**です。大切なのは、気持ちを込めて英語を言うことです。そうしているうちに、しだいに英語が単なる外国語から自分の気持ちを表現できる言葉になってきます。

■単語や表現

Interesting と funny

「おもしろい!」にあたる英語に、**interesting** と **funny** があります。知的関心や興味を覚えたり、もっと知りたいと思うようなものに対しては、**Interesting!** と言えばいいでしょう。単に面白おかしくて思わず笑ってしまうようなものには、**Funny!** です。

英語で物の数を数える

■英語の数字と数のいい方

英語の数え方は、1 から 10 までは **one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten** です。11 は **eleven**、12 は **twelve** と言います。**Eleven** の元々の意味は、10 数えて 1 残るという意味で、**twelve** も 10 数えて 2 つ残るという意味です。13 から 19 まではどれも、**three** から **nine** と同じ意味の語に、10 を表す **teen** が付いたもので、**thirteen (3 + 10)** … **nineteen (9 + 10)** といった数え方をします。

■英語の決まり

英語という言葉は、物の数に大変神経を使っている言葉です。例えば、バッグが 1 つある場合には **one bag** ですが、2 つあるときには、**two bags** という言い方をします。日本語の感覚からすると、**two** と言ってあるのだからもうそれだけでいいじゃないかと思いますが、あえて **bag** に **-s** を付け

て **bags** とし、2つ以上あるのだということを示します。これを見て英語は数に対して厳密だと感じる人もいるでしょう。でも、「きれいな花ですね」と英語で言おうとしたときに、**pretty flower** と言うべきなのか、あるいは **pretty flowers** とすべきなのかを確認する必要があります。

次に、複数であることを示す **-s** の発音ですが、**day** デイのようにアイウエオで終わる語や、**pen** ペンや **bag** バッグのようにのどが震える音で終わる語の後の **-s** は、**days** デイズ **pens** ペンズ **bags** バッグズのように「ズ」と発音します。**cup** カップや **book** ブックのように息が出るだけの音で終わる語の後に付ける **-s** の発音は、**cups** カップスや **books** ブックスのように「ス」と発音します。また、**box** ボックスのように「ス」で終わる語の後の **-s** は、**boxes** ボックスサイズのようにイズと発音します。

- 語の最後がアイウエオあるいはのどが震える音で終わる語の場合

day デイ	days デイズ
pen ペン	pens ペンズ
bag バッグ	bags バッグズ

- 語の最後が息が出るだけの音で終わる語の場合

cup カップ	cups カップス
book ブック	books ブックス

- 語の最後がスで終わる語の場合

box ボックス	boxes ボックスサイズ
class クラス	classes クラスサイズ

英語には **flowers** のように **-s** を付けて2つ以上あることを示すことができる語と、**water** のように **waters** と **-s** を付けることができない語との2種類があります。大体において、**-s** を付けることができない語は、水のように分量を表す語が多いです。**Water** のように **-s** を付けて数えられない語は、その分量が多い時には **much** を使って、**much water** という言い方をします。お金を意味する **money** も **water** と同様に **-s** を付けて数えられませんので、**much money** という言い方をします。一方、**flower** のように **-s** を付けて数えることができる語に対しては、**many flowers** と **many** を使います。

入れ物などを使って数量を数える

では、水の分量を数えるにはどうしたらよいでしょうか。正確に言おうとすれば、**two liters of water** (水2リットル) のような言い方をするのですが、一般的にはよく水を入れる器の数を使ってその分量を数えます。

ペットボトルに入れて、**two bottles of water** と言ってみたり、グラスに入れて **three glasses of water** などと言って数えるのがよい例です。**Paper** (紙) など **-s** を付けて数えられない語です。**paper** などは器に入れるのではなく、ちぎって手に取れるようなサイズにして、**one piece of paper**、**two pieces of paper** のよう **piece** を使って数えます。

大体、どの **-s** を付けられない語には、どの器なり数えるための語を使うのかが決まっていることが多いようです。

【使い方】

two cups of tea/coffee	カップ2杯分のお茶／コーヒー
two glasses of water/milk	グラス2杯分の水／牛乳
two pieces of paper/wood	2片の紙／木材
two slices of bread/ham	2切れのパン／ハム
two baskets of bread/fruit	2かご分のパン／果物

column

アルファベットと発音 ②

C c

シーと発音します。日本語の「さしすせそ」をローマ字で書くと、「sa shi su se so」と「し」の音だけshiと書き表すことが多いのですが、これはこの音だけ唇を少し丸くして、舌の中ほどを少し高くして発音するからです。日本語の「シュ」の最初の音と同じです。そのためか、私たちはよくC cを「シー」と発音してしまいますが、正しくは「さ(sa)す(su)せ(se)そ(so)」の最初のsの音です。



D d

ディーと発音します。デーとならないようにしましょう。大文字のDは右の方が出っ張っていますが、小文字のdは反対に左の方が出っ張っています。Bとb、Dとdの小文字は形が同じで、出っ張っている方向が反対になりますので注意しましょう。



英語のdayには24時間分の1日を表す意味と、day and night(日夜)のような言い方があるくらいですので、日が昇り沈むまでの日中を表す意味の2つがあります。日本語でも「日」は、カレンダーなどでの24時間の意味と、日中の意味とがありますが、夕日が沈むと1日が終わったと感じるのは同じ気持ちなのかもしれません。

deskと似た意味の語にtableがあります。tableの元々の意味は、平たい板という意味です。それを脚で支えている家具が、私たちが食事や作業をするために使っているtableです。一方、deskはtableと同じように水平の面があることは同じですが、引き出しが付いている点がtableと異なります。